

# 曾於文華

うたごよみ

## 俳句

### 末吉俳句会

母の声小さくなりて初電話

古藤  
まゆ美

東風の母会う度同じ事を言ひ

下大田  
正子

鬼追ひてふ奇習残せし寒の宮

宮路  
生大子

### 大隅俳句会

落葉焚くけむりが雲となりにけり

逆瀬川  
節子

元日の海の夕風心醉ふ

岩重  
みどり

寒炎や火のゆるやかに和み初む

大川  
満

身は洞ほらとなる老梅の咲き初むる

福村  
よう子

## 短歌

### 末吉短歌会

魚影濃き辺野古の海の埋立ては  
民意つぶしの牙を剥きたり

大森  
巳喜生

題字  
末吉文化協会会員 濑戸口 淳民氏

晩秋の寂しくなりし田の畔を  
少しいろどる蓼の花むら

草野  
ミツ子

母逝きて母似と言はれ母になき  
子のなき生を我は生きゆく

泊  
康

### 大隅短歌会

三月ぶりに散髪終えし老い我に  
妻が笑つて甘酒沸かす

渡辺  
哲夫

白鷺の一羽が立ち木にとまりをり  
ことしも時はそこなのか

川辺  
玉枝

オレンジ色の明け空「嗚呼」と翔けゆける  
鴉の一日私の一日

広川  
ミドリ

同じ本同じことばに共鳴す  
夫婦となりて二十年過ぐ

脇丸  
洋子

もぎたての金柑ほおばりコトコトと  
炭火で煮込む御節のし始め

永岡  
冴子

## 薩摩狂句

### にがごい会末吉支部

一方向き  
くのぶん

未だも行つどち  
古川  
一幹

一方向きして  
浜田  
一好

七十七歳しちじゅんとし  
五体瓦落ごたいわらく

一方向き  
泊  
康

自分がだれつ  
自分  
一方向き

走しい孫まごを見み  
桐野  
奈世

自分がだれつ  
自分  
一方向き

夫婦でパチンコ  
夫婦  
一方向き

世帯瓦落せいたいわらく  
世帯  
一方向き

夫婦でパチンコ  
夫婦  
一方向き